

園だより



第 13 号

平成 20 年 2 月 28 日

謙譲の美德

園長 山内武道

最近、あまり聞かれなくなりましたが、日本の精神文化のひとつに“謙譲の美德”ということばがあります。それは、ちょっと他の人に譲る心の余裕であり、心の温かさや豊かさです。それが、今の日本で忘れ去られているように思われてなりません。

よく耳にする競争の原理、それは資本主義国・日本では基本になる考え方であることは言うまでもありません。しかし、その中で生きる時に、競争を全てのことに当てはめていかどうかを考えてみなければなりません。

そのことで人間の心が荒んでしまう危険性もあり、今、日本がその状況に直面し驚くような事件や醜い事件の発生に結びついているように思われてなりません。

最近、残念なことに公共の場等で若い人々の模範になるべき年配者の中に、“最近の若い者は...”と、決して言えない醜い行動が目につき、年を重ねた者の一人として恥ずかしい思いをしています。人と共に生きなければならない人間社会であることを忘れ“自分さえよければ...”という風潮が、あちこちで強くなっているように思います。

エレベーターやエスカレーターに乗る時・公共の乗り物に乗る時・スーパーマーケット等の建物に出入りする時等々、競争しない方がいいことがたくさんあります。それは、人間がお互いに譲り合って心地よく生きるためであり、安心して生活できる社会を実現するためでもあります。最近、海外だけでなく日本でも、銃の乱射事件がたびたび起こります。これは激しい競争社会に疲れ果てた人や誤った自己顕示をする人が起こす現象ではないかと思いますが、皆さんは如何、お考えでしょうか・・・。

昔から日本では、“お先にどうぞ...”や“お互い様...”、“お蔭様で...”等、相手を思いやりたり相手に譲ったりする気風があり、それが心地よい社会づくりに役立ってきました。

そのことで人々の間に信頼感や安心感が生まれ、真の責任感や使命感を持つようになりました。建物の出入り口やエスカレーターに乗る時にちょっと先を譲る・開けたドアを次の人のためにちょっと押えておいてあげる・雪で道が細くなった時に横に寄って先に通してあげる等々、小さな“謙譲の精神”を発揮する場面がたくさんあります。それが積み重なり発展して美德となり、安心して暮らせる社会の実現に結びつくことを確信しています。

子ども達にも“お先にどうぞ・お互い様”の精神で譲り合う心の余裕がある接し方をしていくことの大切さを教え、周りの人と心地よく暮らしていけるようになると素晴らしいと思います。欧米の人は、朝、エレベーター等で一緒になると、見知らぬ人とも笑顔で挨拶を交わしますし、レディーファーストの習慣も身につけています。

自立を実践する機会に...

青組(年長組)の子ども達が夏・冬 2 回の合宿を終えて、見違える様に成長した姿を見せてくれました。夏の合宿で見られた不安な表情はなくなり、身の周りの仕度等も手際よくできスキーにも意欲的に取り組み、独り立ちへの確かな手応えがありました。

これが“親離れ・子離れ”の大きなきっかけになり、子どもが大きく飛躍する機会になりますので、この体験をこれからの生活に活かしていただきたいと思います。

最近の多くの悲しい事件がありますが、その要因の一つとして、当事者が人間として自立できない場合が多いと思われれます。また、心配されているイジメは、やる側もやられる側も精神的に自立が出来ていない人間同士であると言っても過言ではありません。

その様なことから、子どもの自立を促す取り組みは、教師にとっても親にとっても重要な課題です。年中組・年少組の子どもには、衣服の着脱をはじめ遊びの身支度等々、いろいろな活動を通して自分のことを自分でやることにし、自立の芽生えを育てています。

家庭生活の中でも“子育ての目的は、子どもの自立”であることを、何時も念頭において、お子さんに接していただくことを願っています。

安全運転の心がけを...

=シートベルトの着用を忘れずに=

幼稚園に多くの方が車を運転して来られます。その際には峠越えがあり険しい道も通りますので、事故に遭わないようにくれぐれもご注意ください。冬道では、予期せぬことが起こりますので、絶対に油断をせず安全運転に努めてください。

急ブレーキや急ハンドルは禁物です

アクセルを踏み込み過ぎないように注意してください

シートベルトは必ず着用してください

子どももシートベルトの着用を忘れずに・・・

後部座席でもシートベルトの着用を・・・

よその子どもを乗せる場合は、前もって親同士で約束を・・・

追突や反対車線からの飛び出し事故も多いので、細心の注意をお願いします

みんなのためにドアを...

年長組の合宿でロッジに2度食事に行きました。その時に、自分から、みんなが通り過ぎるまでドアを押さえてくれた子どもがいました。2度とも別の子どもが押さえてくれていて、みんなが“ありがとう”と言って通り過ぎました。子どもの中に“周りを見て自分ができることをする”という、素晴らしい態度が育ってきています。ここにも保護者の皆さんの子育ての姿勢が表れていると思います。先日、ロッジで、私が開けたドアを横からすり抜けて行った小学校高学年の行動とは大違いで、嬉しくなり感動もしました。

これからも、こんな小さな行動の積み重ねを大切にしていきたいと思います。

ゲーム依存が怖い...

今、ネットゲームにはまり込む人がいて、いろいろな問題が現実起きています。そのために家庭生活や職場での立場がうまくいかないことも多くなっているようです。

職場から家庭に戻ると自分の部屋に入り、家族と会話もせずに連日夜中までゲームをする大人が実際に現れているようです。仮想の世界にはまり込み、その中の人間になりきっていたり普段、温厚な人柄が急に性格が変わり攻撃的になったりする等々、不可解なことも起きる様です。また、インターネットを通じて見ず知らずの人とゲームや会話をしたり、高価な物の売買をしたりして、現実とかけ離れた世界に浸りきっていることもあるそうです。

“人は人によって人となる” ここでの人は、肌を触れ合うと温もりが伝わる生身の人で、時には衝突もあり互いに優しさも発揮できる人です。しかし、仮想世界では、人の命の大切さには関わりがなく、気に食わなければ叩きつぶし命を奪っても罪にもならない世界です。人の命を簡単に奪う悲惨な事件が多発しているのは、そのことと無関係ではないと思います。

それは、まさに脳の中に異変が起きている状態であると警告している専門家も数多くいます。仮想世界に浸りきっている人が、時には現実の世界との区別がつかなくなり、凶悪な事件を起こすこともあると思われます。今、中国ではネット中毒が大きな社会問題になっています。

ネットにはまり込み、睡眠をとらない・長時間食事をしない・学校へ行かない等、麻薬やアルコールの依存症と同様に身も心も壊れてしまう恐ろしい状況が生まれています。その更正施設での悲惨な様子をテレビで見ました。これは他人事ではなく、日本でも多くの子ども達がゲームに夢中になっている状況に危機感を持ち、学校や家庭での真剣な対策が求められます。

安易にゲームを与えない・ゲームをする時間の約束や決まりを作る・友達と遊ぶ時にはゲームをしない・仲間とふれあいぶつかり合うことも大切にする等々、それぞれの家庭の実態や考え方に即して、子どもと一緒に話合い素早く実行することが必要です。

また、今は一つの家庭だけでの実践は難しいので、子どもの友達の親同士でも、この状況を認識し対策を講じることも求められます。子どもに、その様な危機が迫っていることを認識できる親同士の仲間になっていただくことを願っています。保護者の皆様で話題にさせていただくことや、幅広い多くの方々に井戸端会議に参加していただくことも歓迎します。